
虫狩り

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

虫狩り

【コード】

N1415M

【作者名】

川崎ゆきお

【あらすじ】

ある若武者が山の根にさしかかったとき、老武者が大きな虫と戦っているのと遭遇した。

ある若武者が山の根にさしかかったとき、老武者が大きな虫と戦っているのと遭遇した。

老武者は斧で虫との間合いを測り、ひと叩きで倒した。

虫は畳程で甲虫に似ており、付近にも無数にいる。

若武者も太刀で斬りかかろうとするが、巨大な角で逆に反撃をくらった。

バシッ

老武者がその虫をひと叩きした。

「強い相手じゃない」

老武者が笑顔で若武者に言う。

「これを倒さないと、先へは進めぬのか？」

「そんなことはない、こいつらは襲ったりはしない。ただ攻撃するところまでも反撃してきよる」

「この山腹に砦跡があると聞いたが？」

「砦跡に巣くう幽霊武者狩りか？」

「そうです」

「すっかり、そのことを忘れておったわい」

「と、言いますと？」

「幽霊武者がなかなかな手ごわくてのう。剣技を上げるため、この麓で虫退治をしておった」

「剣？ その武器は斧でしょ」

「こちらのほうが甲殻類には効くのじゃよ」

老武者は虫の羽根と角をもぎ取り、荷車に投げ入れた。

「そこそこ金になる」

「砦跡の幽霊武者は強いのですか？」

「この虫と同じ程の強さじゃよ。お前さんでも何とか退治できようて」

「あなたは一撃でこの虫を倒された。だったら幽霊武者も簡単に倒せるほどの力はあるはずです。なのにどうして砦跡へ行かないのですか」

「だから忘れておったのよ。あれから何十年にもなるのう」

「どうして倒しに行かないのですか？」

「都の僧侶から頼まれたのは昔の話よ」

「私も僧侶から頼まれて、ここまで来たのです」

「知っておるよ。何人もここを通り過ぎて行きよるからのう」

「では、役目を果たされては如何ですか？」

「虫退治に夢中になってな。こいつらを叩き潰すのが面白うて面白うて…。それに幽霊武者など倒しても大した賞金はもらえんぞ。それよりこの虫の角は薬用になるとかで、結構高く売れる」

「私は幽霊武者を倒さないと、都のお坊さんに…」

「お前さんは出世が望みじゃる。行くがよい、虫など相手にせず」

「はい」

若武者は山道を上り始めた。するとあの老武者と同じように斧を持った武者があちらこちらで虫狩りしている。

若武者はそれらを見ないように砦跡へと歩を進めた。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1415m/>

虫狩り

2011年10月2日23時16分発行